

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200412		
法人名	社会福祉法人厚仁会		
事業所名	グループホームさぬき富士		
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1 (電話) 0877-21-1000		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価決定日	平成19年10月15日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 1月 18日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2		名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5	2名	要支援2		名	
年齢	平均 87.2歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団厚仁会 厚仁病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山の中腹に位置しており、利用者がその人らしい暮らしを続けられる支援に向けて、併設施設の協力・連携のもとに、管理者をはじめ、職員の熱意、努力が実感できるホームである。建物内は生活しやすいように居室や廊下は広く、玄関やホール・食卓に生けられた花や、室内の装飾にも季節感が漂う落ち着いた雰囲気である。管理者や職員は、笑顔で明るく穏やかな態度で接しており、利用者一人ひとりの生活ペースに合わせて、散歩や買い物、通院、ホーム内外の行事への参加など、希望に沿うケアが受けられている。地域に密着したホームとして、更なる発展に期待している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、ケアサービスや運営体制について、いくつか課題が示されていたが、一人ひとりの支援について具体的に検討し、外出支援など、積極的な取り組みができており、解決できるところから順次改善されつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、主任を中心に職員全員が一緒になって、チェック・協議するなどの作業を通じて、質の向上に繋がるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームからの事業報告に対する意見や参加者からの情報提供をいただきながら、地域住民との交流の持ち方など、具体的な話し合いがなされている。さらに、運営推進会議を通じて認知症に対する理解が地域に普及するよう、議題に応じて参加メンバーや会議の持ち方の工夫などに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には家族に積極的に声かけし、気がかりなことや意見をいただいたり、運営推進会議で出された家族や利用者の意見を、管理者と職員、関係者で検討し、運営に反映できるようにしている。また、利用者の暮らしぶりをホーム便り”ほんのり讃岐富士”で知らせたり、行事の場を通じて、家族との交流を図るようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の人が避難訓練に参加したり、利用者が地区の老人大学に参加したり、ホームの行事にボランティアとして協力を得るなど、地元の人々との交流が広がりつつある。また、地域の川や溝ざらえに参加する等、地域の一員としての役割を果たしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの生活を大切にしたいサービスが提供できるよう、“笑顔・優しさ・思いやり”を理念としている。	○	この機会に、地域密着型サービスの「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」という役割について、職員間に意識の共有化を図り、事業所独自の具体的な理念の構築に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	”笑顔・優しさ・思いやり”をベースにした支援のあり方について、常に勉強会や申し送り等で確認しあいながら、日々のケアに取り組んでいる。	○	地域との交流について積極的に支援できつつあるので、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるよう、日々の実践にさらに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加したり、川や溝掃除等、地域の一員としての役割を果たすよう努めている。また、利用者が地区の老人大学に参加したり、高齢者理解を深める支援として、地元小学生との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前回の改善課題は実践可能な分野から取り組んでおり、日々のケアの改善やグループホームの役割の再認識の機会となっていることがうかがえる。評価を運営推進会議に活用していく考えがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、6月には漏水対策について話しあった。会議でいただいた意見や情報を職員間で共有し、サービスの向上に活かしたり、地域住民との交流・支援を得るための機会としている。	○	さらに、グループホームの運営が、認知症に対する地域住民の理解と協力が広がるよう、議題に応じた参加メンバーや会議の持ち方の工夫等の検討に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には必要時に相談し、情報提供を受ける等、連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、定期的なホーム便り”ほんのり讃岐富士”を通じて、知らせている。個々の状態については、個別の書面による連絡時や、面会時に情報提供している。行事の参加時には、家族との交流を図るよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に積極的に声かけし、気がかりなことや意見をいただくようにしている。また、運営推進会議で出された家族や利用者からの意見を、管理者と職員、関係者で検討しながら、運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動時による影響には、ローテーションを配慮する等、対応している。法人内の異動に関しても、適正配置に努めている。ホーム便りで職員の異動について紹介できると、更に、家族とも馴染みの関係が深められると思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加については、可能な範囲で勤務シフトに組み入れる等、配慮し、申送り時や勉強会で伝達している。法人の計画する全体的な研修は計画されている。	○	緊急時の初期対応や日々の安心・安全なサービスの確保、向上・情報の共有化のために、グループホーム職員の具体的な研修計画が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の職員研修を受け入れたり、近隣のグループホームへの実習を実施する等、積極的に同業者との交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	近隣のグループホームとのネットワークづくりに意欲を持っており、今後、実現されるよう期待したい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から本人・家族等との面談・外泊・外出等で対応しながら、方針を決めている。入居後も、徐々に馴染みが深められるよう、家族や関係者と連携しながら、利用者の希望に添った対応ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を家族のような、そして、人生の先輩の一人として尊重し、共に過ごし、支えあうことのできる関係にあることが、職員の行動などからうかがえる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、これまでの暮らし方などを本人や家族から情報を把握し、日々の暮らしの中で、一人ひとりの行動や会話・意見に注意し、思いや意向の把握に努めている。また、家族との面会時に、希望等について把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に、利用者の立場で本人や家族と話し合い、意見や要望を把握している。連絡ノートを活用し、状態の確認及び変化、対応等について情報交換し、介護計画の作成・共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、定期的な見直しと、状態変化等の必要に応じて、本人や家族、関係者と話し合い、計画の変更を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望により訪問歯科を利用したり、受診の付き添いや併設施設の多様な行事に参加する等、家族や本人の要望に柔軟に対応できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人及び家族等の希望によるかかりつけ医の医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人・家族の希望に沿った対応ができるよう、「ターミナル看取りに関する指針」を作成し、どのような時期においても相談に応じられ、医師や看護師との連携のもとに、職員全員がその方針を共有し、支援できるような体制が整いつつある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりをよく知り、その人にあった言葉かけなどの対応に心がけている。また、記録をはじめ、個人情報の保護に努めている。	○	トイレ使用中の確認がしにくいいため、プライバシーの保護が危惧されるので、使用中の表示等の再検討が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活プログラムはあるが、一人ひとりのその日の体調やペースに合わせて、希望に沿うよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事しながら、一人ひとりの状態に応じた声かけや介助により、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・午後を問わず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の気づきを大切に、「何をしたいか」・「何ができるか」を把握し、料理や掃除、洗濯物干しなど、体調を見ながら、楽しみを持って役割を果たしていただけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者には、日常的な散歩や併設施設のバスを利用して買い物に行く等、外出支援に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状態により、止むを得ず鍵をかける場合もあるが、常にはチャイムにより対応しており、自由に外出できるよう見守り、支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣の方の協力を得て、避難訓練を実施し、地元の消防も含めた連絡網を作成している。しかし、グループホーム独自の避難訓練は実施できていない。	○	消防署や地域の関係者を巻き込んだグループホーム独自の避難訓練や、避難経路の確認等について、運営推進会議の協力を得るなど、定期的にも実施されるよう期待したい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、希望に応じて複数の献立が作成され、調理の形態・水分や食事の摂取量にも配慮し、一人ひとりの状態に応じた支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、共有空間は、自然の採光が取り入れられる工夫がなされている。夏の遮光にはすだれを利用したり、テーブルの花や玄関の置物など、季節感を漂わせており、居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンスや鏡台、家族の写真などを持ち込み、馴染みのある生活が継続され、居心地よく過ごせるよう支援できている。		